

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100652		
法人名	特定非営利活動法人 福井福祉医療開発研究所		
事業所名	グループホーム レインボー灯明寺		
所在地	福井県福井市灯明寺町59-12-1		
自己評価作成日	平成30年11月19日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、本人のペースに合わせてゆっくり過ごしていただいています。生活の中でできるリハビリを中心に、できることへの支援に取り組んでいます。併設されている認知症デイサービス利用者との交流も盛んで、一緒に外出したりデイサービスのレクにも参加しています。小学生の福祉教育の場として、子供たちに来ていただいたり、サマーボランティアの受け入れや実習生の受け入れをしており、様々な年代の方たちとの交流に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成 30 年 12 月 12 日		

当事業所は福井市北西部住宅街に位置し、地域の小学生へ併設のデイサービス事業所職員と共に認知症サポーター養成講座の開催を通じて高齢者の生活特性や認知症について知ってもらうほか、講座終了後も交流を図っている。小学生との交流では入居者の制作したマスコットやストラップを渡し喜ばれることで入居者の生きがいや楽しみとなっている。また、併設のデイサービスの休所日には、フロアをグループホームの面会者や地域住民に開放している。今年度は猛暑のため地区の祭りに参加出来なかったが、地域住民が利用者へ屋台の焼きそばなど持ってきてくれるなど、職員アンケートの「地域の方とのふれあいの場となることを目指します」という新たな目標の実践に努め、地域との良好な関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と共に、地域の方との触れ合いの場となることを目指している。また、理念に対して振り返りをしている。	職員は「ひとり一人の思いに耳を傾けその人らしく過ごせる笑顔あふれる生活の場を目指す」という理念を就業時に確認しながら日々支援している。又、年度終了時には振り返りの自己評価を提出し各自が実践を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、地区の行事や市の防災訓練等に参加している。近くの小学校の福祉体験の受け入れを行っている。	地区小学校の認知症サポーター養成講座に職員が参画している。講座修了後の生徒を受け入れ、車椅子体験や高齢者の様子を紙芝居で知ってもらうとともに利用者の手作りマスコットをプレゼントするなど継続して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学生に対して、認知症についての勉強会を行っている。地域のボランティアの方にも定期的に来ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告の他に、事故報告も行っている。包括センターの方や会議出席者からも、意見やアドバイスをもらっている。	隔月の第2土曜日に開催している。地区の自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員、介護相談員、利用者家族で構成され、意見交換をしている。また、出席できない家族へは毎月の郵便物に議事録を同封し郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からの案内、パンフレット、新聞の切り抜き等を、玄関に掲示している。	地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の他に月1回、定期的に話し合いの機会がある。日常的に入退所や運営に関する連絡、相談の他、在宅が困難な人のショートステイの受け入れ依頼がある等連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項説明書に記載し、職員間でも申し合わせている。緊急でやむを得ず玄関を施錠する際は、ご家族に説明し、経過観察、再検討記録を記し、今後どのように対応していくのか話し合っている。また、月に1度開催の幹部会でも話し合い、グループ全体で考えている。	年1回身体拘束に関する研修を行い、職員は拘束の具体的な内容も把握し、理解している。入居者が近隣への散歩や地区の行事に参加する事で地域住民とも顔見知りの関係が築かれ、日中玄関の施錠は行わない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、職員による虐待はない。入浴時はアザ等の虐待の兆候を見逃さないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長は社会福祉士の資格を保有しており、権利擁護や成年後見制度に関する研修にも参加している。必要のあるご家族には、活用のための説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去するにあたり、不安な点や疑問に思うこと等、十分に話し合い、ご理解をいただいている。面会時に話を伺った時は、その都度説明し、ご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者及びご家族からの意見要望があった時には、早急に対応している。	事業所行事への参加や面会時に、目につく場所に、日常の活動の様子がわかる写真を掲示し、家族の要望を引き出すきっかけとなるよう努めている。要望や意見は、可能な限り運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	長期にわたり、職員が働くことが出来るように、状況に合わせた勤務内容や時間帯の見直しをしている。職員からの意見を取り入れ対応している。	2ヶ月毎の勉強会のアンケートで意見や提案が出来るほか、管理者や主任は日常的に職員が意見を言いやすい環境作りに努め、提案された意見はその都度取り入れるようにしている。実現が困難な場合は説明し理解を求めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度昇給がある。施設内の勉強会では職員が講師役を務め、その中から年間の最優秀者を選出し、モチベーションの向上につなげている。誕生月には理事長より直接お祝いを手渡されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には機会がある毎に参加してもらっている。施設内勉強会は担当職員が内容を検討し、勉強会を行っている。内容は業務に密着した内容を勉強会にあげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、グループホーム同士情報交換や職員研修等参加している。グループホーム職員研修では、毎年受け入れをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学や面会時に、ご本人と話す機会を持ち、不安に思っていること、気になることを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が見学申し込みに来た時に、不安に思っていること、困っていることを聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や申し込みに来た際、その方の状況によっては他のサービスを勧めることがある。早急な対応が必要と感じる方には他施設への申込を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するという考え方ではなく、共に寄り添いながら生活リハビリを行い、その人らしく生活できるよう、一緒に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、ご家族の思いや不安、不満、希望についても十分聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の兄弟姉妹、親戚、友人が面会に来られている。面会時にはみんなで写真を撮り、プレゼントしている。	日頃から利用者の家族、友人、知人が面会に来ることが多い。日曜日の面会時には居室だけでなく隣接するディサービスセンターのフロアを面会場所として提供するなどの支援をし、気兼ねなく面会できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時には、仲のいいご利用者同士と一緒に掛かけられるようにする等、配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ移られた後も、相談員と連携しながらご家族、ご本人が困ることが無いように、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で、ご利用者の思いを聞き、できることはなるべく叶えるよう努めている。	職員は、利用者との日頃の会話から思いを把握するよう努めており、家族から聞き取りをした情報も参考にしながら支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活歴や過去のことを聞いたり、兄弟姉妹、友人からも昔のことを聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、排泄チェックを行い、健康管理に留意している。1日の過ごし方も記録に記入し、少しの変化にも気付けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月行っている。見直しが必要な時は、ご家族の希望を聞き、担当職員が計画作成担当者とプランの見直しを行っている。	昼食後のミーティングで、日々の記録を基に申し送りを行っている。モニタリングは毎月行い、見直しは、職員が1～2名を担当し、家族や本人の希望を聞き取り、計画に反映している。	見直し後の目標設定やケア計画など、見やすい様式で作成し、入居後に知り得た情報をアセスメントに追加し、利用者のよりよい暮らしを支えるよう取り組むことが求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことはその都度、記録に記入している。記録はいつでも目を通すことが出来るようになっていて、職員はミーティングで話し合ったり、申し送りノートに記入し、見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者の要望に応じて、受診の付き添いや買い物の支援を行っている。訪問ヘアカットの希望を聞いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一度、ボランティアの方によるフラダンス、歌、踊りのショーがある。参加型のショーなので、ご利用者も一緒に楽しむことが出来る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者が中心と考えており、往診やかかりつけ医がある場合はそのまま継続して受診していただいている。変化の見られる時、急変の時は、職員が付き添い医師に状況を伝えている。	本人の望むかかりつけ医に家族が同行し、受診しているが、緊急時や家族の同行が困難な時は職員が同行することもある。家族の受診時には日頃の情報を書面で提供し、受診後の情報は職員も共有し服薬などの支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師を配置している。看護師が日ごとの健康管理を行い、受診時は付き添い、ご利用者の状態を伝えている。介護士、看護師間の情報の共有はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者にはグループホームに入居中であることを理解してもらい、早期退院できるよう話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明しているが、話し合いのうえ対応している。重度化した場合、医療機関や老健施設、介護老人福祉施設など、他施設を紹介している。その際必要な資料を渡している。	契約時に、要介護度4もしくは食事が出来なくなった時点で他の施設を紹介することを家族に説明している。家族からは住み慣れた事業所で終末期を迎えさせたいとの要望が出ているが看護師の確保が出来ないことを説明している。	看取り介護については、看護師の確保と共に、職員も研修に参加するなど、家族や利用者の希望に応えられるような体制づくりへの検討が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルがあり、勉強会も行っている。マニュアルは事務所内の棚にわかりやすく保管している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下、年2回の避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。	年2回、消防署の指導を受けて運営推進会議開催に併せ避難訓練を実施している。うち一度は夜間を想定した訓練となっている。職員は緊急時平常心で行動できるよう、日頃からシミュレーションを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という気持ちで対応するよう心掛けている。個別性ケアを重視しながら、その方のこだわりを尊重している。	同性介助を基本とし、同性介助が困難な時には本人に了解を得て支援に当たっている。日常生活では見守りの中で利用者の出来る事や得意分野を見つけながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受診前に入浴したいと要望があれば、入浴していただいている。また、一番風呂を希望する方には、調整して要望に応えるようにしている。コミュニケーションをとりながら、ご利用者の思いを聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にしている。食事やおやつ等、後で食べたいと言われる方には、時間を遅らせて、本人のペースで食べていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問ヘアカットを利用される方、なじみの美容室へ通う方がいる。好みのヘアスタイルにしている。(パーマや毛染め)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの食の好みを聞くようにし、例えばパン食を希望する方にはそのように提供している。食後の皿洗いや皿拭きの手伝いを一緒にしている。	茶碗、箸、湯飲みは利用者が持込んだ好みの物を使い、職員は利用者と同じものを頂きながら手の止まる人へ食事が進むよう声掛けをしている。嫌いな献立は代替えを用意するなど食事が楽しくなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者に合わせた量や形状にして提供している。好みの飲み物を聞いて、水分が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。磨きの腰のある方には職員がケアを行っている。義歯の方は夜間預かり、消毒を行い清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握できるようにしている。その方に合わせたトイレ誘導の声掛けをしている。またプライバシーに配慮した声掛けをしている。	食前の嚥下体操や夕方のラジオ体操で筋力アップを図り、排泄の自立が継続するよう取り組んでいる。トイレでの排泄が困難な利用者へは、周りの利用者へ配慮した声掛けや支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中のおやつはフルーツ(バナナ等)を提供している。便秘気味のあk谷は牛乳を摂っていただいている。毎日、お昼と夕方に体操を行い、体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望を聞くようにしている。入浴の順番や湯の温度、同性介助を希望される方にはそのように対応している。	週2回の入浴は午前中の時間帯であれば希望する時間に入ることが出来る。脱衣室や浴室は空調を完備し、通常の浴槽の他に特殊浴槽の設備もあり、状態の変化に対応可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になる時間を必要とされる方には、自室で休んでいただけるようにしてる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人ファイルにて管理している。ご利用者がどんな薬を服用しているかわかりやすく表記している。薬のセットは職員2人で確認している。服薬時はご利用者の前で名前の確認をし、薬を飲みこむところまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできることを、得意としていることをしていただいている。洗濯干しや洗濯たたみ、皿拭き、裁縫など、昔からしていたことをしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力のもと、外泊や外出、外出に出掛けている。 天気の良い日は季節を感じられる場所へドライブしたり、近所を散歩している。	花見など季節に応じた年間計画に基づく外出支援の他、利用者がテレビや新聞を見て希望する突発的な外出やおやつタイム時のデザート外出等も行っている。車椅子介助などの都合により2~3人ずつの外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理している方が多いが、ご自分で小遣い程度を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望される方には、職員が電話を掛けて会話できるようにシエテル。ご利用者の中には携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の棚にはご利用者の方に作っていただいた作品を飾っている。季節によってご利用者の方と一緒に飾りを交換している。 フロアのボードには、日常の様子を写真に収め、ご家族に見ていただけるようにしている。	共用空間は天井が高く、窓からの採光は明るく穏やかで、また温度や湿度も適切に管理されて居心地がよい。また、壁面には利用者の作成した季節の飾り物や、認知症応援の手作りのタペストリーなどを飾り、日頃の活動の発表の場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方が同じテーブルに配置したり、ソファでもご自由に過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用の方が今まで使用していたものや、思い出の品物を持って来ていただいている。 ご家族の面会時に写真を撮り、部屋に飾っている。	使い慣れた馴染みの家具が持ち込まれている。また、家族の写真や、利用者の手作りの作品などが飾られ、居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の部屋がわからないという方には、部屋の入口に暖簾を掛けることで、迷わずに自室に戻ることが出来ている。		